

争の幻燈などは、“魯迅がかつてここにいて、そして、ここから去ったこと”をまざまざと思い知らされるような、重みのある資料だった。



図4：魯迅下宿跡

#### 4. おわりに

東北大学を後にして向かった先は、キャンパス西側にある、仙台医専時代に魯迅の下宿「佐藤屋」跡地である、図4の碑が建てられていた。今回、仙台に着いて後に、この場所が「魯迅記念広場（仮称）」として整備中であることを知った。

ここもまた、“魯迅がかつてここにいた”ことを示す痕跡であり、しかも、仙台市によって顕彰されようとしている。今秋には、佐高信『いま、なぜ魯迅か』（集英社、2019）も刊行され、魯迅再評価の機運が高まっているようにも思われる。

仙台調査の成果を活かしながら、今後は、文献調査を中心に、同時代言説に即したアプローチによって、本研究課題を着実に進めていきたい。

（所員 外国語学部教授）

## 2019年度 アジア研究センター活動報告

2019年4月～2019年10月

### 共同研究グループ主催による公開研究会

●研究グループ：「東アジアに政治発展」（共催）

◆2019年5月24日（金）

会場：3号館 305教室

テーマ：「ポストひまわりの台湾－選挙・政治・安保」

報告者：千北辰（台湾 退役 陸軍少将）

●研究グループ：「東アジアの国際経済・ビジネスの変遷と現状そして今後の展望」

◆2019年5月17日（金）

会場：アジア研究センター（16号館108号室）

テーマ：「PCビジネスのロジとSCM」

報告者：柴田 淳志（武蔵大学非常勤講師）

◆2019年7月31日（水）

会場：アジア研究センター（16号館108号室）

テーマ：「一帯一路構想の進展プロセスを考える」

報告者：秋山 憲治（神奈川大学アジア研究センター客員教授）

◆2019年9月25日（水）

会場：アジア研究センター（16号館108号室）

テーマ：「日本の教育関連ビジネスの新興国市場における可能性－ベトナムとスリランカの事例から－」

報告者：山本 崇雄（神奈川大学経済学部教授）

●研究グループ：「植民地国家と近代性：

アジア諸国を中心とする比較研究」

◆2019年7月13日（土）

会場：アジア研究センター（3号館208講堂）

テーマ：「パイナップルのグローバルヒストリー：

ハワイ・台湾・沖縄を結ぶネットワークとして」

報告者：八尾 祥平（神奈川大学経営学部非常勤講師）